

2020年度 薬学部FD活動(後期)

薬学教育評価(再評価)を振り返って

2021年3月3日(水) 14:15-16:00

1. 薬学教育評価概要
2. 本評価の結果と対応
3. 再評価報告書(評価委員会案)について
4. 将来にむけて(グループ討議と発表)

グループ討議と発表

本学の特色でもある、多様な学習歴や背景で入学する学生への効果的な教育方法について、

1. 各教員として取り組んでいる工夫や実践例、悩み
2. 学部として今後取り組んでいきたいこと、などについて、

リメディアル教育への対応も含めて、グループに分かれて意見交換をおこなった。

その後、各グループでだされた意見について発表した。
(各グループのまとめについては、次ページ以降に記載)

2021年3月3日(水) FD グループ討議 A班
(50音順 児島、駒田、高良、山本、山本、阿部)

各教員として取り組んでいる工夫、実践例、悩み
学部として今後取り組んでいきたいこと、など

●悩み

- ・学生の多様性、成績下位の学生さんへの対応に集中したい。
(成績下位の学生さんが増えて、均一化されてきている)
- ・締め付けも必要か(単位認定)
- ・薬学部に求められているものも変わっている。
- ・自分で努力する姿勢と覚悟が必要なので、強調したい。

- ・形式的に、段階的な評価をどうするか。
- ・リモートでは伝わらないところもあった。

- ・進級率を上げるだけでは足りない。薬剤師になれるかどうか、
なったあとがどうか不安。

- ・卒業研究の活動と試験勉強のバランス

- ・全学共通科目とのかねあい(選択、履修、学習)
 - ・共通科目を積み残した学生に対応が必要。

- ・共用試験へのフォローに支障がある(個人情報の取り扱い)。

A-1

実践例、学部として今後取り組んでいきたいこと、など

●取り組みたい

- ・学習への姿勢について、1, 2年生にはガイダンスで強く伝えている。

- ・入学予定の学生さんへの資料提供をさらに工夫できるか?

- ・仮進級の学生への対応
再履修者が講義を受講できるように、時間が重ならないように時間割を
きちんと設定する。

- ・出席する講義の時間を整理して、学生の時間を有効活用できるようにする。
(空き時間の整理、補講の充実)

- ・全学共通科目の選択が難しい学生向けに、履修のモデルを提示する。

- ・担任の機能強化
 - ・担任が、履修登録～ポートフォリオ作成のフォローする。
 - ・学生がどこで詰まっているか把握して記録する。
 - ・研究室単位、複数の教員で(低学年も)担任して、フォローに
厚みを持たせる。

A-2

2021/03/03 薬学部後期FD活動 Bグループ
【齋藤、山中、村重、中村、海堀、長久保】

1. 各教員として取り組める工夫や実践例

①マイノリティの学生〔編入生や海外からの学生など〕：下記サポートが伸びの鍵になる

- ・ 一番最初が重要（本学での講義のスタートラインまで）
- ・ 学習が始まる前までのサポートが大切
- ・ 編入学生の奨学金の申請サポート（生活面の不安の払拭）
- ・ 語学のサポート（生活面・学習面の不安の払拭）

②マジョリティの学生について〔高校卒業後（浪人含む）の学歴・職歴のない学生〕

- ・ 金銭面での苦労がある学生が多い印象がある
〔奨学金の機会の紹介などの充実が求められる〕
- ・ 学習とバイトとの両立ができていないか疑問が感じられる（むずかしいのではないか）
〔講義時間の少ない時期（2年生など）に以前できていた学習の習慣が失われることが危惧される→これらの観点からもフォローを考慮していく必要があるのではないか〕

2. 学部として、今後取り組んでいきたいこと

- ・ 各学生の学歴情報の共有（他大学での履歴や、文系選択者など）：学生母集団の把握
- ・ 学生の事情を把握してはどうか（リストの共有）
- ・ 学部としてポートフォリオを導入して個々の学生の更新情報の共有の促進を図る
- ・ 保護者との情報共有：上記ポートフォリオの活用例

2021/03/03 薬学部後期FD活動 Cグループ
【角山、酒井、白木、杉本、高橋、寺岡、矢上】

1) カリキュラムについて、「2年次のカリキュラムが空いており、暇になってバイトを始めたりして薬剤師になるという目標を見失っているケースもある」という問題点が示された。一方、「4年次の時間割がかなりタイトである」という問題も指摘された。

改善策として、「4年次・3年次の実習の1部を3年次・2年次に組み込んで1年生から4年生までの学修機会を均等に得られるようにしてはどうか」という案が挙げられた。1時的に学年をまたいで実習することになり教員の負担は増すかもしれないが、それでも改善した方が良いのではないかと。また、学部として学生の意欲を高めるために、必ずしも単位と関係なくてもよいので、薬剤師になるという目標を見失わないように全学年継続的に目標を設定し体制を作ってはどうかという意見もあった。

C-1

2) リメディアル教育について、「ノートの手取り方がわからない学生が多いので、モデルを用いてノートの手取り方を教えているが、中々定着しない」という問題点が表示された。

改善策として、「ほとんどの講義科目において定期試験100%で評価しているのが現状であるが、ノート自体を評価してはどうか。また、文章力を養う小論文などの課題を取り入れてはどうか」という案が挙げられた

3) その他

・今年度、オンライン授業に際して作成した資料を残して、復習用などに次年度以降も活用してはどうか。

・学生同士が教えあう機会と場所を提供するために、SGD・TA・図書館などを活用してはどうか。

C-2

2021/03/03 薬学部後期FD活動 Dグループ
【岡村、川井、田畑、柳澤、通山】

1. 各教員として取り組んでいる工夫や実践例

悩み: 計算(比例計算など)の苦手な学生の指導に苦勞している。
一斉授業の中では、わからない学生がどこまで理解したかを把握できない。

工夫している点
イメージしやすい図を作成して説明する。

2. 学部として今後取り組んでいきたいこと

提案: リメディアル科目において、学力にあわせた個別指導を行なう。
・グループ学習による少人数指導体制にする。
・ステップアップ式の学習教材を作成する。(公文式のような一)

課題: グループ学習では、多くの教員が指導に関わる必要がある。
教材作成についても、手分け、共有することなど、工夫と効率化が必要。